

2013年度（平成25年度）

# 事業報告

2013年4月 1日から  
2014年3月31日まで

社団法人 部落問題研究所

「2013年度事業報告」目次

1	部落問題に関する各種の調査研究	1
(1)	部落問題の歴史的研究	1
(2)	現在部落問題論・人権論の研究	2
(3)	人権と教育に関する理論的・実証的研究	2
(4)	人権に関わる文芸の研究	3
2	部落問題関係資料の収集・保存・整備及び紹介に関する事業	3
(1)	部落問題関係資料の収集	3
(2)	資料室の整備・充実	3
(3)	研究図書資料の収集	3
(4)	関係図書の紹介	3
3	関係図書の編集・刊行に関する事業	3
(1)	『人権と部落問題』を毎月2500部、増刊号を含めて年14回刊行した	4
(2)	紀要『部落問題研究』の205, 206, 207輯を各800部刊行した	4
(3)	関係図書の編集と発行	5
4	講習会・講演会・研究会の開催及び講師の斡旋に関する事業	5
(1)	研究会の開催	5
5	庶務事項	6
	臨時総会、役員会、評議員会、監事監査、委員会、会員の移動状況等	

## 1 部落問題に関する各種の調査研究

### (1) 部落問題の歴史的研究

地域における人権・民主主義をめぐる状況や運動の今日的展開をふまえながら、部落問題を前近代から21世紀の現段階までの歴史展開の総過程の中で位置づけるとともに、各時代の全社会構造の中で具体的に把握する研究に取り組んだ。

前近代分野では、身分的周縁研究と「賤民」身分研究を、地域社会の構造とその展開との関連において、また身分(制)社会全体の構造の中でとらえること、近現代分野では、人権と民主主義の歴史的展開とその特質を明らかにすることを軸とした地域史の再構成をめざすことや、近現代日本の人権問題とそれに関連する社会運動を解明すること、などの方針をそれぞれ掲げ、科学研究費助成事業(科研費)の交付を受けて遂行されている共同研究「近代日本における地域社会の変貌と民衆運動に関する総合的研究」(研究代表者・廣川禎秀、基盤研究(B)2012~16年度)と連動しながら研究を推進した。

この17名からなる研究組織による共同研究では、近代日本における地域社会の構造的変貌と民衆運動の多様な展開について、その相互関係を重視して総合的・実証的に、また前近代から現代までを射程に入れた長期的な視野の中で明らかにする作業を進めている。

前近代分野で部落問題研究所は、部落問題研究者全国集会「歴史Ⅰ」分科会などを通じて、身分と身分的周縁研究の中心的な位置を占めてきた。今年度は、ジェンダーの視点もふまえてあらたな研究の深化をはかるべく、第51回部落問題研究者全国集会(2013年10月)では「遊廓の存立構造と変容」をテーマとする「歴史Ⅰ」分科会を開催した。

一方、近現代分野でも地域史や社会運動史の再構成をめざして研究を進めてきた。紀要『部落問題研究』207輯では隣接分野の研究者の参加も得て特集「『行き倒れ』とその救護から見るイギリス近代・現代日本・首都東京」を組み、第51回部落問題研究者全国集会では「二〇世紀日本の社会運動—地域と人権の視点から」をテーマとする「歴史Ⅱ」分科会を開催した。

こうして、前近代史、近現代史それぞれの成果を統合して、地域社会構造を前近代から近現代まで一貫してとらえようとする研究を、科研費研究とも連動しながら進めてきた。

以上のような研究方針・活動のもと、歴史研究会、及び第51回部落問題研究者全国集会「歴史Ⅰ」「歴史Ⅱ」分科会を、科研費研究会などとも連動(共催)しながら以下の通り開催した。

【歴史研究会】\*会場は明記した他は部落問題研究所

5月19日 塚田 孝：19世紀の垣外仲間：再考

7月28日 鈴木 忠義：行旅病人及行旅死亡人取扱法の対象史

一戦後における『行旅死亡人の公告』を通して—

9月29日 竹永 三男：東京府の「行き倒れ」と「行旅病人及行旅死亡人取扱法」  
施行後の東京府の対応行政

10月 8日 研究者集会「歴史Ⅱ」分科会準備報告(森下徹、吉川圭太)\*会場はエル  
おおさか

10月14日 研究者集会「歴史Ⅰ」分科会準備報告(横山百合子、人見佐知子)

12月 8日 加美 嘉史：近代京都における「不定住的貧困」の形成と展開~明治期

を中心に～

(現状分析・理論研究会と共催)

3月21日 森下徹(山口)：萩城下における乞食＝勸進層

【研究者集会】※会場は同志社女子大学

10月27日 「歴史Ⅰ」分科会 〈遊廓の存立構造と変容〉

横山百合子：遊廓と近世社会

人見佐知子：公娼制度の近代転換期

「歴史Ⅱ」分科会 〈二〇世紀日本の社会運動—地域と人権の視点から〉

吉川 圭太：一九二〇年代の社会運動と在野法曹

森下徹(大阪)：高度成長期の地域開発と社会運動

—大阪府和泉市信太山丘陵の宅地開発をめぐって—

(2) 現代部落問題論・人権論の研究

【現代部落問題論・人権論研究会】 ※会場は部落問題研究所

年来のテーマである部落問題解決過程に関する問題などをとりあげて研究会を4回開き、報告・討論を行った。

4月26日 石倉康次：調査からみる戦後部落の変化

7月13日 梅本哲世：佐藤栄作内閣の「社会開発」論と同和対策

12月 8日 加美嘉史：近代京都における「不定住的貧困」の形成と展開

(歴史研究会との共催)

3月15日 奥山峰夫：ヘイト・スピーチの「法規制」を考える

【研究者集会】※会場は同志社女子大学

第51回部落問題研究者全国集会「現状分析・理論」分科会では、「地域における人権課題を考える」のテーマを設定した。本分科会では、同和行政終結に関する問題、地域における人権諸課題への取組みの問題、その他人権課題に関する問題を報告テーマとしてとりあげてきたが、今回もこれを踏襲して以下の三報告をうけ、意見交換を行なった。

10月27日 植山光朗：福岡県における同和行政を終結させる取組み

丹波真理・伊藤みほ：地域における貧困問題、福祉の取組み

石倉康次：地域における貧困と人権の課題

(3) 人権と教育に関する理論的・実証的研究(主任研究員 梅田修)

【教育研究会】※会場は部落問題研究所

教育研究会では、適宜例会を実施してきた。各会のテーマ及び報告者は次の通りである。

5月11日 林 美輝：ケアの倫理と教育

7月14日 碓井 岑夫：『道徳』の〈教科〉化をめぐる問題

11月23日 篠原 岳司：教育委員会制度の動向とその論点

2月 2日 久保富三夫：新藤宗幸『教育委員会—何が問題か』を検討する

【研究者集会】※会場は同志社女子大学

10月26日の第51回部落問題研究者全国集会の「全体会」では、折出健二「いじめ問題の克服と教育実践」の報告にもとづき、いじめの実態と課題を検討し、教育実践はどのように対応するのか、できるのかを議論した。また、「教育分科会(テーマ「いじめ・体罰問題と教育実践」)では、次の二つの報告にもとづき、活発な論議を展開した。

10月27日 松浦 善満：いじめ自死事件の教訓と提言—大津市立中学校いじめ事件を通して

吉田 一郎：体罰はなぜなくなるか なくすにはどうしたらいいか

(4) 人権に関わる文芸の研究

【文芸研究会】＊会場は部落問題研究所

従来通り隔月に例会（第188～192回）を開催してきた。各回の日時・報告者およびテーマは、次の通りである。

第188回（5月26日）

成澤榮壽著『伊藤博文を激怒させた硬骨の外交官 加藤拓川』の講評会

第189回（7月14日）

秦重雄：上司小剣作『天満宮』『狐火』

第190回（9月22日）

中村美子：川端康成作『山の音』における女性の群像

第191回（1月26日）

本庄豊著『いじめる子』の講評会

第192回（3月9日）

『谷善と呼ばれた人』の講評会

なお、上記例会における報告と討議の主な内容は、毎回発行の「文芸研究会ニュース」に掲載している。また、月刊誌『人権と部落問題』に掲載の「文芸の散歩道」は本研究会が担当しており、1999年10月以来、169回を数えている。

【研究者集会】＊会場は同志社女子大学

第51回部落問題研究者全国集会「思想・文化」分科会では、テーマ「人権の深い淵より」に基づき、次の報告と討議を行った。

10月27日 大江真道：宗教者の観点から一人権について—

中村美子：川端康成作『山の音』における女性の群像

## 2. 部落問題関係資料の収集・保存・整備及び紹介に関する事業

(1) 部落問題関係資料の収集

歴史、現状、運動、行政、人権、教育、文芸等に関する資料の収集を進めた。

(2) 資料室の整備・充実

第1資料室（開架式）の書架の整理、目録カードの入力は完了し、閲覧利用は便利になった。第2資料室（閉架式）開設の準備として、未整理の寄贈図書について整理し、目録を作成した。

(3) 研究図書資料の収集

『人権をめぐる十五講』（岩波書店）他5点の図書を購入した。

(4) 関係図書の紹介

『人権と部落問題』『部落問題研究』『会報』において、関係資料の紹介をおこなった。

## 3. 関係図書の編集・刊行に関する事業

(1) 『人権と部落問題』を毎月2500部、増刊号をふくめて年14回刊行した。  
特集のテーマは、次の通りである。

- 「憲法とくらし」(5月号)
- 「食の安全・安心」(6月号)
- 「体罰・いじめ問題」(7月号)
- 「平和に生きる権利」(8月号)
- 「メディアの役割を問う」(9月号)
- 「今日の貧困を考える」(9月増刊)
- 「未来を切り拓く若者たち」(10月)
- 「高校生の自主活動」(11月)
- 「加速する改憲策動」(12月)
- 「広がる貧困と生活保護」(1月)
- 「在日コリアンの歴史と生活」(2月)
- 「『3・11』三年の現実」(2月増刊)
- 「労働者の使い捨てを問う」(3月)
- 「『教育改革』を考える」(4月)

連載「世界のくらしと文化」のテーマは、次の通りである。

- 「ブルガリア共和国ー日本という鏡～美しきブルガリア像」(5月)
- 「ブルガリア共和国ー乳食文化～失われつつある伝統、創られつつある伝統」(6月)
- 「ブルガリア共和国ー新たな価値へ～情報化される食の表裏」(7月)
- 「台湾ー台湾原住民族のふるさとに育まれた伝統の現在の姿をたずねて」(8月)
- 「台湾ー多民族国家における原住民族文化の再生とその展開」(9月)
- 「台湾ー多民族異文化の間に生きる希望と喜び」(10月)
- 「台湾ー多文化の視点からみた社会的境界の諸相」(11月)
- 「ポーランド共和国ー変わりつつある食生活～『Let`sペンキ塗り』の時代」(12月)
- 「ポーランド共和国ー変わりつつある食生活～『Let`sペンキ塗り』の時代」(その2)(1月)
- 「ポーランド共和国ーステレオタイプの見所」(2月)
- 「ポーランド共和国ー雪の中に咲く花」(3月)
- 「タイ王国ー焼物の産地に『住まう』」(4月)

(2) 紀要『部落問題研究』の205、206、207輯を各800部刊行した。  
主な論考は、次の通りである。

- 205輯 第50回部落問題研究者全国集会報告
- 206輯 町田 哲「近世後期徳島藩における牛馬皮の流通と取締」  
塚田 孝「近世大坂の非人と人別帳」
- 207輯 小室輝久「イギリスにおける救貧法制と『行き倒れ』」  
鈴木忠義「今日における行旅病人及行旅死亡人取扱法の対象者像」

竹永三男「『行旅病人及行旅死亡人取扱法』施行後の東京府における『行き倒れ』とその対応行政に関する基礎的検討」

(3) 関係図書編集と発行

『部落問題解決過程の研究—現状・理論篇／資料篇Ⅰ』（第3巻）2014年1月

4. 講習会・講演会・研究会の開催及び講師の斡旋に関する事業

(1) 研究会の開催

歴史、現代部落問題論・人権論、教育、文芸の各分野ごとに研究会を開催した（詳細は各研究会の項参照）

2013年	4月26日	現代部落問題論・人権論研究会
	5月11日	教育研究会
	5月19日	歴史研究会
	5月26日	文芸研究会
	7月13日	現代部落問題論・人権論研究会
	7月14日	教育研究会
		文芸研究会
	7月28日	歴史研究会
	9月22日	文芸研究会
	9月29日	歴史研究会
	10月8日	歴史研究会
	10月14日	歴史研究会
	10月26日	第51回部落問題研究者全国集会全体会（同志社女子大学）
	10月27日	第51回部落問題研究者全国集会分科会（同志社女子大学）
	11月23日	教育研究会
	12月8日	共催：歴史研究会、現代部落問題論・人権論研究会
2014年	1月26日	文芸研究会
	2月2日	教育研究会
	3月9日	文芸研究会
	3月15日	現代部落問題論・人権論研究会
	3月21日	歴史研究会

(2) 第51回部落問題研究者全国集会

2013年10月26日（土）～27日（日）に、同志社女子大学（京都市）で110名の参加を得て開催した。全体集会（1日目）では、折出健二（愛知教育大学）の問題提起「いじめ問題の克服と教育実践」にもとづいて、活発な議論を展開した。2日目は、5分科会（歴史Ⅰ、歴史Ⅱ、現状分析・理論、教育、思想・文化）ごとに報告・討論をおこなった。

(3) 『破戒』輪読会の開催

毎月第1日曜日に、『破戒』輪読会を開催した。2013年9月1日より開催し、2014年3月2日で第7回むかえた。各回10名前後の参加者があった。

## 5 庶務事項

### (1) 臨時総会

7月15日(月曜日・休日)に臨時総会を開催して、次の議案を審議し、議決した。

1. 2012年度臨時総会後における「定款」変更案の訂正に基づく新たな「定款」変更案の承認について
2. 特別会計(60周年記念事業会計)処理の変更の承認について
3. 科学研究費助成事業直接経費の経理処理の変更の承認について

### (2) 役員会

1) 理事会を13回開催して、研究所の事業運営について審議し、執行した。

- 第1回 議事 ①理事長・常務理事選任の件  
(4月29日)
- 第2回 議事 ①公益法人認定に関わる諸問題について  
(6月7日)
- 第3回 議事 ①公益社団法人認定申請に関する進捗状況について  
(6月14日) ②「定款」変更案について  
③臨時総会の日時について
- 第4回 議事 ①会費規程について  
(7月15日) ②寄付金規定について  
③公益社団法人認定後の対応について
- 第5回 議事 ①公益社団法人認定後の移行日について  
(8月9日) ②会費規程について  
③役員報酬等規定について  
④借地取得積立金計画表について
- 第6回 議事 ①公益社団法人認定に伴う諸規程等の見直しについて  
(9月6日) ②公益社団法人部落問題研究所研究員委嘱の件について
- 第7回 議事 ①休職者について  
(10月11日) ②就業規則・給与規程について  
③会費規程について  
④研究員の委嘱について
- 第8回 議事 ①公益社団法人部落問題研究所諸規程について  
(11月8日) ②研究員の委嘱について  
③60周年記念論集第3巻の刊行について  
④会員の動向について
- 第9回 議事 ①公益社団法人部落問題研究所諸規程について  
(12月18日)
- 第10回 議事 ①公益社団法人部落問題研究所諸規程について  
(1月17日) ②積立金の目的外支出(赤字補填)について  
③財政健全化について

- 第11回 議事 ①公益法人への移行後の諸課題について  
(1月31日) ②財政健全化について
- 第12回 議事 ①公益法人への移行後の体制強化について  
(2月21日) ②公益社団法人部落問題研究所諸規程について  
③会員の動向について
- 第13回 議事 ①会員の動向について  
(3月28日) ②公益社団法人部落問題研究所諸規程について

2) 評議員会

評議員会は、7月15日に開催し、2013年度臨時総会(7月15日)に附議する原案を審議した。

3) 監事(4名)は、7月15日に、2013年度臨時総会(7月15日)に附議する業務執行状況、財産状況について監査し、これを承認した。また、4月25日に、2013年度の業務執行状況、財産状況等について監査し、これを承認した。

(3) 委員会

2006年度より、委員会体制を整理して、二つの委員会体制(編集委員会・研究委員会)をとっている。編集委員会を12回、研究委員会を6回開催し、所管の事項を審議した。

(4) 所内会議

6回開催し、部落問題研究所の事業の運営について、適宜協議した。

(5) 会員の異動状況

2013年度末の会員数は、398名で、その内訳は、普通会員363名(維持会費を支払う普通会員31名)、賛助会員32名(団体を含む)、特別会員3名であった。

2013年度の入会者は、普通会員2名、退会者は24名(うち賛助会員1名・1団体、特別会員1名)である。退会者が多かった要因は、会員の高齢化と退職である。

2014年4月  
社団法人 部落問題研究所